

「こういう」「こういった」の使い分け

近 悠 美

1. はじめに

本稿では、「こういう」「こういった」の使い分けについて考察する。「こういう」「こういった」は、ほぼ同じ機能であると言われており、「こういう」と「こういった」の間には、ほとんど違いがないとされている。その例文は、以下のとおりである。

- (1) 檀家としての義務の一つに、お寺の建物の新築・改築・修理、といった際に割り当てられる寄付があります。お寺というものは、(中略) そのお寺に所属する檀家全体の共同所有物です。そのため、(○こういう / ○こういった) ことをするのは当然のことだということも知っておきましょう。¹ (BCCWJ)

(1)は、もとは「こういった」が出現している文である。「こういう」「こういった」の「こ」もしくは「こう」の指示対象(以下「指示対象」と呼ぶ)は「お寺の建物の新築・改築・修理、といった際に割り当てられる寄付」、係り先は「こと」である。(1)は、両者の置き換えが可能であると思われる。

では、以下の例文はどうだろうか。

- (2) それは、もとの記憶にそっていうと、(○こういう / ×こういった) 状景なんです。ある真夜中、名探偵明智小五郎の助手である小林少年

1 本稿の例文にある一重下線は「こういう」「こういった」の「こ」もしくは「こう」の指示対象を示し、囲み線は係り先を示している。これらは筆者によるものである。また、「こういう」「こういった」の二重下線も、筆者によるものである。なお、以下の例文もすべて同じである。

がふと目がさめると、となりの部屋で物音がする。(後略) (BCCWJ)

(2) は、もとは「こういう」が出現している文である。指示対象は「ある真夜中、名探偵明智小五郎の助手である小林少年がふと目がさめると、となりの部屋で物音がする。(後略)」、係り先は「状景」である。(2) は、「こういう」を「こういった」に置き換えることができないと思われる。このことから、「こういう」「こういった」には、何か使い分けがあるのではないかということが考えられる。

本稿では、コーパスから収集した例文をもとに、「こういう」「こういった」の使い分けを明らかにすることを目的とする。

まず、2. では先行研究を概観する。次に、3. では本稿における調査対象と研究方法について述べる。次の4. では、「こういう」「こういった」の使い分けについて考察する。まず、4. 1. では照応に着目して考察する。次に、4. 2. では「こういう」「こういった」の係り先について考察する。次の4. 3. では、書き言葉・話し言葉という観点から、「こういう」「こういった」について考察する。そして、4. 4. では「こういう」「こういった」の置き換えが可能な場合について考察する。最後に、5. で本稿のまとめと、今後の課題について述べる。

2. 先行研究

指示詞に関する先行研究は多いが、ここでは「こういう類/こういった類」² について述べている先行研究を概観する。

まず、金水・木村・田窪 (1989) では、「こういう類」「こういった類」について、①「こういう類」と「こんな類」³ は意味がよく似ている、②事柄や出来事などを表す場合、単数が複数かの区別は重要であり、複数の場合は「これらの類」⁴ や「こういった類」が用いられる、③「こういう類」「こういった類」の係り先が「時」「場合」では複数の例を指示することがあるが、その場合は一般的な「時」「場合」を指す、としている。また、「こういった類」を使う場合は、指示対象も含めて、「それと同じ特徴をもった対象一般を指示する (p.87)」

2 「こういう類」は「こういう/そういう/ああいう」をまとめたもの、「こういった類」は「こういった/そういった/ああいった」をまとめたものである。

3 「こんな類」は「こんな/そんな/あんな」をまとめたものである。

4 「これらの類」は「これらの/それらの/あれらの」をまとめたものである。

としている。金水・木村・田窪（1989）は、「こういう類」「こういった類」について述べてはいたものの、両者の使い分けまでは述べていなかった。しかし、金水・木村・田窪（1989）は学習者向けの参考書であるため、使い分けについては触れなかったのだろう。

次に、「こういう類」と「こんな類」の使い分けに関する先行研究を概観する。日本語記述文法研究会（2009）では、「こういう類」は「こんな類」と同様に名詞を修飾する指示詞であるとし、①指示対象を否定的にとらえている場合は「こんな類」が用いられ、相手の発言内容をそのまま受ける場合は「こういう類」が用いられる、②「こんな類」は指示対象の程度を指し示すのに対し、「こういう類」は指示対象の性質を指すことが多い、としている。一方、杉山・劉（2013）では、①現場依存性が高い場合は「こんな類」、低い場合は「こういう類」が用いられる、②特定の個人を表す場合は「こんな類」、不特定個体の集合を表す場合は「こういう類」が用いられる、③言語情報が累積されると、「こういう類」の使用も可能になることを明らかにしている。

そして、話し言葉と書き言葉に関する先行研究を概観する。遠藤（1988）は、「そういう」は話し言葉的で、書き言葉にふさわしくないことから、「そういう」を書き言葉に改める際には「そういった」や「そのように」などに変えると述べている。次に、伊豆原（2001）は、書き言葉の資料では「そういう」が1回しか出現しなかったが、話し言葉の資料では複数回出現していたことを明らかにしている。また、松浦（1997）では、文章の内容別に、「こういう類」や「こういった類」などの使用頻度を調べている。その結果、日常的な会話の中では「そんな」、アカデミックな内容の対談では「そういう」、社説（書き言葉）では「こうした」の使用頻度が最も高かったことを明らかにしている。一方、対談では「そういった」の使用が少なかったとしているが、その理由について、「話し言葉としてはあらたまりすぎている（p.157）」からではないかとしている。なお、日常的な会話と社説においては、「こういった類」の使用率が0%であったことを明らかにしている。

以上、先行研究を概観したが、「こういう」「こういった」の使い分けに関する先行研究は、管見の限りでは見当たらなかった。両者にはどのような使い分けがあるのだろうか。本稿では、「こういう」「こういった」の使い分けについて考察する。

3. 調査対象と研究方法

本稿では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下「BCCWJ⁵」と呼ぶ)から例文を収集した。その結果は、表1のとおりである。

表1. BCCWJ「こういう」「こういった」

こういう	こういった	合計
20499 (88.2%)	2730 (11.8%)	23229 (100.0%)

表1によると、「こういう」の出現数は20499件、出現の割合は88.2%、「こういった」の出現数は2730件、出現の割合は11.8%であった。BCCWJでは、出現の割合の約88%が「こういう」、約12%が「こういった」であることが分かった。

なお、BCCWJには、新聞や国会会議録、Yahoo!知恵袋など、全部で11のジャンルがあるが、本稿では、内容や文体の偏りが最も少ないと思われる書籍を調査対象とした。書籍における「こういう」「こういった」の出現数と出現の割合は、以下のとおりである。

表2. 書籍「こういう」「こういった」

ジャンル	こういう	こういった	合計
書籍	6071 (85.0%)	1074 (15.0%)	7145 (100.0%)

表2によると、「こういう」の出現数は6071件、出現の割合は85.0%、「こういった」の出現数は1074件、出現の割合は15.0%であった。全ジャンルでは、「こういう」の出現の割合が約88%、「こういった」の出現の割合が約12%であったが、書籍のみでは、「こういった」の出現の割合が約3%増えたことがうかがえる。BCCWJの全ジャンルにはYahoo!ブログも含まれているが、ブログは書き言葉でありながら、くだけた言葉が多いことから、話し言葉に近いと思われる。そのため、全ジャンルでは「こういった」の出現の割合が約12%と低かったのだらう。

また、表2には調査対象外となる「こういう」「こういった」も含まれている。調査対象外の「こういう」「こういった」とは、以下のとおりである。

5 BCCWJは、“Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese”の略である。

- ①指示詞「こう」が動詞「いう」「いった」に係っている場合。
 ②「こういうふう」「こういうよう」のように、「こういうふう」「こういうよう」で1語であると考えられる場合。
 ③「どうこういう」のように、慣用句の一部として用いられている場合。

それぞれの例文は以下のとおりである。

- (3) コートニイはおれに目配せして、小さく口を動かしてこういった、「どうかしらね？」それはともかく、ことはわりとうまく運んでいるようだった。(BCCWJ)
 (4) つまり自分が生きている目的とモチーフがあつて、それでこういうふうにやったら、こうなったということの体験が、今までにほとんどないという感じがするんです。(BCCWJ)
 (5) ささいなことで一部の感情を刺戟し、世間に再び迷惑をおかけしたくない一心で、こんどの措置をとった。内容がどうこういうのでなく、時期的にまずいという一語につきる。(BCCWJ)

(3)の「こういった」は、指示詞「こう」が動詞「いった」に係っているため、(3)の「こういった」は調査対象外とした。(4)は、「こういう」が「ふう」に係っているのではなく、「こういうふう」で1語であるとも考えられることから、調査対象外とした。(5)は、「どうこういう」という慣用句の一部であることから、調査対象外とした。

7145件の例文をすべて確認した結果、調査対象外となる「こういう」が270件、調査対象外となる「こういった」が45件含まれていた。それらを除いた結果、本稿の調査対象となる「こういう」「こういった」の出現数と出現の割合は、以下のとおりとなった。

表3. 調査対象「こういう」「こういった」

ジャンル	こういう	こういった	合計
書籍	5801 (84.9%)	1029 (15.1%)	6830 (100.0%)

表3を見ると、「こういう」の出現数は5801件、出現の割合は84.9%、「こういった」の出現数は1029件、出現の割合は15.1%であった。

両者はほとんど変わらないとする先行研究が多いが、少なくとも全体の約

15%は「こういった」である。このことから、「こういう」「こういった」の使い分けを考える必要があると思われる。

4. 「こういう」「こういった」の使い分け

4. では、「こういう」「こういった」の使い分けを考察する。4. 1. では照応に着目し、4. 2. では「こういう」「こういった」の係り先に着目し、4. 3. では書き言葉・話し言葉という観点に着目して考察する。そして、4. 4. で両者の置き換えが可能な場合について考察する。

4. 1. 照応に着目した場合

ここでは、照応に着目して考察する。

まずは、以下の例文を見ていただきたい。

- (6) しかし、この手紙を読んでわかったことがいくつかある。一つは、この「黄泉路爆運」の正体が栃木県那加町に住む「樹泉鈴江」という名の女性らしいこと。もっとも、(○こういう / ○こういった) ことだって偽装しようと思えば簡単にできるから、これでこの作者の本名がわかったと軽々しく断定するわけにはいかない。(BCCWJ)
- (7) 名前を聞けば、だれでも知っているような人たち一罪のない市民一が、大勢投獄されて、運命を待っています。破壊活動の犯人が見つからないと、ゲシュタポはそのつどほぼ五人の人質を、壁の前に立たせるのです。新聞には、たびたびこの人たちが死んだという記事が載りますが(○こういう / ○こういった)非業の死にたいする説明は、きまって“事故死”なのです。(BCCWJ)

(6) は、もとは「こういった」、(7) は、もとは「こういう」が出現している文である。(6) の指示対象は「この『黄泉路爆運』の正体が栃木県那加町に住む『樹泉鈴江』という名の女性らしいこと」、係り先は「こと」である。(7) の指示対象は「破壊活動の犯人が見つからないと、ゲシュタポはそのつどほぼ五人の人質を、壁の前に立たせる」、係り先は「非業の死」である。(6) (7) は、両者の置き換えが可能である。

では、以下の例文はどうだろうか。

- (8) わたしが、お年寄りの娘が話すのを聞いたのは、はじめてのことでございました。それは、(○こういう / ×こういった) ことでした。ここにいる若者が、わたしどもにすばらしい話を聞かせたのです。それがすむと、わたしに意見を求めました。仲間たちのうちで、だれがほうびをもらうに値するかって。(後略) (BCCWJ)
- (9) かれは、とぎれとぎれのことばで、「ばけもの…背の高さは二メートル…ペインのぼろ小屋…ああ！めちゃくちゃ」クーパー氏の報告を整理すると、およそ、(○こういう / ×こういった) ことになった。…身のたけが二メートルないし三メートルある、巨大な金属製怪物が、ペインおやじの小屋のそとで、大あばれのあとひとやすみをしていた。ペインおやじは、あわれ、血まみれの死体となりはてて、(後略) (BCCWJ)

(8) (9) は、両者とも、もとは「こういう」が出現している文である。(8)の指示対象は「ここにいる若者が、わたしどもにすばらしい話を聞かせたのです。それがすむと、わたしに意見を求めました。仲間たちのうちで、だれがほうびをもらうに値するかって。(後略)」、係り先は、「こと」である。(9)の指示対象は「身のたけが二メートルないし三メートルある、巨大な金属製怪物が、ペインおやじの小屋のそとで、大あばれのあとひとやすみをしていた。ペインおやじは、あわれ、血まみれの死体となりはてて、(後略)」、係り先は「こと」である。吉本(1992)では、指示詞「こ」には前方照応だけでなく後方照応の用法もあると述べている。しかし、(6) (7) のように、前方照応である場合は両者の置き換えが可能であるが、(8) (9) のように、後方照応である場合は「こういう」を「こういった」には置き換えられないことが明らかとなった。したがって、指示詞「こ」であっても、「こういった」の場合は後方照応の用法がないことが分かった。

4. 2. 係り先に着目した場合

ここでは、「こういう」「こういった」の係り先に着目して考察する。

はじめに、BCCWJの書籍から収集した「こういう」「こういった」の各例文500件の係り先を、出現数が多い方から順に挙げることにした。

まず、以下の表4は、BCCWJの書籍における係り先の延べ語数と異なり語数である。

表4. 係り先の延べ語数と異なり語数

	こういう	こういった
延べ語数	500	500
異なり語数	277	369
異なり語数/延べ語数	277/500	369/500

表4を見ると、「こういう」の係り先の異なり語数が277件であったのに対し、「こういった」の係り先の異なり語数は369件であった。近(2014)では、「こういう」「こうした」の使い分けについて考察したが、その結果、「こういう」よりも「こうした」の方が異なり語数が多かったことを明らかにしている。近(2014)と表4から、「こういう」よりも、「こうした」「こういった」の方が、異なり語数が多いことが分かった。

次に、両者の係り先を見ていく。以下の表5は、「こういう」「こういった」の係り先を、出現数が多い方から順に挙げたものである。

表5. 「こういう」「こういった」の係り先(後接が名詞)

こういう			こういった		
1	こと	72 (14.4%)	1	こと/事	39 (7.8%)
2	とき/時	27 (5.4%)	2	もの	12 (2.4%)
3	の	13 (2.6%)	3	問題	11 (2.2%)
4	ところ/所	11 (2.2%)	4	場合	6 (1.2%)
5	もの	8 (1.6%)	5	ケース、言葉、意味、ところ	5 (1.0%)
6	状況、かたち/形、ばあい/場合、問題	7 (1.4%)	9	事情、考え方	4 (0.8%)
10	人	6 (1.2%)			
	その他	356 (71.2%)		その他	423 (84.6%)
	合計	500 (100.0%)		合計	500 (100.0%)

表5から、近(2014)と同様に、両者とも係り先には「こと」「ところ⁶」といった形式名詞が多いことと、両者とも「こと/事」の出現数が最も多いことが分かった。しかし、最も多かった「こと/事」であっても、「こういう+こと」

6 「こういう」では、形式名詞の「ところ」が4件、場所を表す名詞の「ところ」が7件、「所」が1件であった。一方、「こういった」では、形式名詞の「ところ」が4件、場所を表す名詞の「ところ」が1件であった。

の出現の割合が14.4%、「こういった+こと/事」の出現の割合が7.8%とあまり高くないことから、使い分けのルールを明らかにすることまではできなかった。

そこで次に、「こういう」「こういった」の後接が「名詞」の場合と、「連体修飾+名詞」の場合を比較する。以下の表6は、「こういう」「こういった」の後接が「名詞」である場合と、「連体修飾+名詞」である場合の出現数と出現の割合である。

表6. 係り先「名詞」「連体修飾+名詞」

係り先	こういう	こういった
名詞	429 (85.8%)	399 (79.8%)
連体修飾+名詞	71 (14.2%)	101 (20.2%)
合計	500 (100.0%)	500 (100.0%)

表6を見ると、「こういう」の後接が名詞の場合の出現数は429件、出現の割合は85.8%、連体修飾+名詞の場合の出現数は71件、出現の割合は14.2%であった。一方、「こういった」の後接が名詞の場合の出現数は399件、出現の割合は79.8%、連体修飾+名詞の場合の出現数が101件、出現の割合は20.2%であった。表6から、「こういった」の係り先の約20%が「連体修飾+名詞」であることと、「こういう」よりも「こういった」の係り先の方が、「連体修飾+名詞」が多いことが分かった。

次に、「こういう」の後接にある名詞と、「連体修飾+名詞」の名詞部分の特徴を考察する。「こういう」の後接のうち、約86%は名詞、また、「こういった」の後接のうち、約80%は名詞であるが、「こういう」の約14%、「こういった」の約20%は、両者の後接が「連体修飾+名詞」となっている。「こういう」「こういった」の後接が名詞ではなく「連体修飾+名詞」であることには、何か理由があるのだろうか。

まず、「連体修飾+名詞」とは、表7のようなものことである。なお、表7は、連体修飾に補語が含まれているもの、すなわち、連体修飾句となっているもののみを挙げている。

表7. 「連体修飾句+名詞」となっている係り先

	係り先
こういう	子供のまだ知らない <u>言葉</u> ⁷ 、いわばストレートな <u>形</u> 、きわめてすぐれた <u>生物</u> 、あまりにも割り切りすぎた <u>行動</u> 、ゆるやかで柔軟な <u>世界</u> 、ささやかな民主的 <u>ジェスチャー</u> 、山城の、株に対する異常な <u>執着</u> 、好きでしかたがない <u>活動</u> 、新しく意欲的な <u>やり方</u> 、初々しい感じのする <u>女</u> 、仲の好い <u>ご夫婦</u> 、昔から変わらない清潔で整然とした <u>小都市</u> 、意味ありげな <u>発言</u> 、正真正銘の職業的 <u>ピアニスト</u>
こういった	機会主義的な王任三郎の <u>発言</u> 、「至粹至純」の、あるいは「仁愛」の <u>ミクロ世</u> 、機械と人間の <u>接点</u> 、「ふろくのついた男の子の雑誌」、イラスト入りの多彩な <u>グッズ</u> 、伝統的な芸能の <u>場</u> 、ピーターの荒っぽい <u>おどし文句</u> 、初期の段階の <u>もの</u> 、作者の伝奇小説にこだわる <u>姿勢</u> 、性暴力の被害にあった <u>女性</u> 、貧困削減や債務救済に向けた <u>取り組み</u> 、藤原相之助についての <u>履歴</u> 、非合理的あるいは衝撃的な親の <u>対応</u> 、グループごとの性格の <u>違い</u> 、「表示や印刷のための <u>指示</u> 」、与党・官僚側の、自分たちに都合のいい方向に向かわせようとした <u>失態</u> 、個人、市民、国民、そして社会や国家や世界との <u>関係</u> 、センチメンタルでロマンチックな <u>お話</u>

表7を見てみると、両者とも名詞が抽象的な場合に、連体修飾句が出現しているように思われる。しかし、「ご夫婦」「雑誌」など、両者ともに、具体的な名詞の場合でも連体修飾句が出現している。したがって、使い分けのルールを明らかにすることまではできなかった。今後はさらに例文を収集し、検討してみる必要がある。

また、「こういった」の場合の方が、連体修飾句が長いようである。このことから、「こういった」の方が、連体修飾句を長くして係り先を詳しくする傾向にあると思われる。

そして、表8は、「こういう」「こういった」の係り先の名詞部分に着目したものである。

7 下線は、すべて筆者によるものである。

表8. 係り先 (名詞部分)

係り先	こういう	こういった
名詞	こと、とき/時、の、ところ/所、手、もの、状況、かたち/形、場合、例、問題、人、タイプ、言い方、次第、場所、手段、視点、状態、機会、目、見方、仕事、ケース、雰囲気、人間、考え方、商売、現象、姿勢	こと/事、もの、問題、場合、事実、ケース、言葉、意味、ところ、の、事情、考え方、状態、人たち、点、背景、とき、例、数字、文章、話、理由、変化、商品、動き、病気、状況、機会、類、企業群
(連体修飾句 +) 名詞	言葉、形、生物、行動、世界、発言、ジェスチャー、執着、活動、やり方、女、ご夫婦、小都市、ピアニスト	発言、ミクロ世、接点、雑誌、場、グッズ、おどし文句、もの、姿勢、女性、取り組み、履歴、対応、違い、指示、失態、関係、お話

表8では、「こういう」「こういった」の後接の「名詞」は各30件挙げ、「連体修飾句+名詞」の名詞部分は、「こういう」は14件、「こういった」は18件挙げている。

表8において、名詞部分を取り出してはみたものの、使い分けのルールを明らかにすることまではできなかった。だが、係り先が名詞のみの場合は形式名詞が多く出現しているが、連体修飾句+名詞の場合は形式名詞があまり出現しないという傾向にあることが分かった。しかし、表8は「連体修飾句+名詞」の名詞部分のみを挙げているため、今後はさらに調査対象を広げて考察する必要がある。

4.3. 書き言葉・話し言葉という点に着目した場合

ここでは、「こういう」「こういった」を書き言葉・話し言葉という観点から考察する。「こういう」は話し言葉的、「こういった」は書き言葉的であると言われている。そこで、日本語話し言葉コーパス (以下「BTSJ」⁸) と呼ぶ) からも、「こういう」「こういった」の例文を収集し、書き言葉と話し言葉に出現する「こういう」「こういった」を考察することとする。

まず、BTSJにおいて、調査対象となる「こういう」「こういった」の出現数と出現の割合は、以下のとおりである。

8 BTSJは、“Basic Transcription System for Japanese”の略である。

表9. BTSJにおける「こういう」「こういった」

コーパス	こういう	こういった	合計
BTSJ	267 (97.1%)	8 (2.9%)	275 (100.0%)

表9より、「こういう」の出現数は267件、出現の割合は97.1%、「こういった」の出現数は8件、出現の割合は2.9%であった。表9から、「こういった」は話し言葉ではあまり使用しないことがうかがえる。

そして、BCCWJとBTSJにおける「こういう」「こういった」の出現数と出現の割合は、表10のとおりである。

表10. BCCWJとBTSJにおける「こういう」「こういった」

コーパス	こういう	こういった	合計
BCCWJ	5801 (84.9%)	1029 (15.1%)	6830 (96.1%)
BTSJ	267 (97.1%)	8 (2.9%)	275 (3.9%)
合計	6068 (85.4%)	1037 (14.6%)	7105 (100.0%)

表10より、BCCWJでは「こういう」の出現数は5801件、出現の割合は84.9%、「こういった」の出現数は1029件、出現の割合は15.1%であった、一方、BTSJでは「こういう」の出現数は267件、出現の割合は97.1%、「こういった」の出現数は8件、出現の割合は2.9%であった。

表10から、BCCWJもBTSJも、「こういう」の方が多く使われていることが分かった。特に、BTSJは約97%が「こういう」であり、「こういった」はわずか約3%であった。したがって、日本語学習者から質問があった場合には、「話し言葉では『こういう』を使う」と指導すればいいと思われる。しかし、約3%は「こういった」が使われていた。一体、どのような場合に、話し言葉で「こういった」を使用するのだろうか。

そこで、ここからは、BTSJに出現していた「こういった」の例文を見ていく。例文は以下のとおりである。

(10) なんかあのー、まあ小ぢんまりとした授業なんかはこういった教室でっていう。(BTSJ、一部改変)⁹

(11) [『追いコン』というイベントについて話している]

1年生、だからまだ1年、今の36代の子たちも、こういった場でまた話す機会があったときに、自分の言葉でしゃべってもらえるとうれし

いね。(BTSJ)

- (12) [都会で生活するのがいいか、生まれ育った田舎で生活するのがいいか話している]
あー、単純に人も集まるしな、都会っていうか、まあ、こういった場だと。
(BTSJ)
- (13) [都会で生活するのがいいか、生まれ育った田舎で生活するのがいいか話している]
けどまあな、確かに実家つつうか、おじいちゃんちなりおばあちゃんちなりがまたこういった場所にあったら違うかもしれないけど。(BTSJ)
- (14) [都会で生活するのがいいか、生まれ育った田舎で生活するのがいいか話している]
うん、山一っていうのがあし、だけどやっぱこっちの便利なものの良さもわかってるから、だから、こういった一人っているのかね。いるのかねって、こういった人も少なくないと思うんだけどー、ね。(BTSJ、一部改変)
- (15) “ケーキはどうなった?”、で、“ケーキは太郎に食べられた”というようにこういった視点、これを視点移動です、1つの視点移動の1つだと思えますね。(BTSJ、一部改変)
- (16) [研究について話している]
まあそういやしょうせ、僕もあのポライトネスをその、そうですね、あの小説とかの中からこういった、拾っていきいたいと思ってるんですよ、用例を、はい。(BTSJ)

(10) は、「現在いる場所」が指示対象であり、係り先は「教室」である。(11) は「追いコン」というイベントについて話しており、指示対象は「追いコンが行なわれている場面」、係り先は「場」である。(12) (13) (14) は、同一人物

9 BTSJは話し言葉コーパスであるため、以下のような情報も文字化されている。

(例) /沈黙6秒/なんかあの一、まあ小ぢんまりとした授業なんかはこういった_(お一)_###教室でっていう。(10)の改変前、点線は筆者による)

点線の「/沈黙6秒/」は沈黙があった箇所、「(お一)」はいづち、そして、「###」は文字化する際に聞き取れなかった箇所である。本稿において、これらの情報は考察の対象外であるため、本文の(10)のように、すべて削除した。なお、その他の例文についても、考察の対象外となる情報は削除、あるいは句読点に変更した。

による発話である。子供が自然というものを知らない中で成長していくことは寂しいことだという話題から、現在暮らしている都会で生活するのがいいか、生まれ育った田舎で生活するのがいいかということについて話している。(12) (13) の指示対象は「現在住んでいる場所」である。また、(12) の係り先は「場」、(13) の係り先は「場所」である。(14) には「こういった」が2件出現しているが、どちらも指示対象は「都会に長く住んでいても、田舎はいいと思える人」、係り先は「人」である。(15) は、直接受身になった場合の視点移動について話している。(15) の指示対象は「太郎からケーキに視点を変えたこと」、係り先は「視点」である。そして、(16) は発話者自身の研究について話している。(16) の指示対象は「生成文法の研究のために必要な用例について」、係り先は「用例」である。なお、「こういった」と係り先の間「拾っていきなと思ってるんですよ」が挟まれているが、これは、「こういった用例」と言うつもりが間違えてしまったために、言い直したのではないだろうか。BTSJ は話し言葉であるため、(16) のような言い直しも、そのまま文字化されているのだろう。

4. 2. では、「こういう」「こういった」の係り先には「連体修飾+名詞」もあることを明らかにした。しかし、(10) から (16) において、「連体修飾+名詞」は見られなかった。このことについては、書き言葉の場合はすべてを文字によって伝える必要があるため詳しく書くが、その一方で、話し言葉の場合は現場にあるものを指示しながら話すことが可能であることから、BTSJ では「連体修飾+名詞」が見られなかったのではないだろうか。

4. 4. 両者の置き換えが可能な場合

以上、4. 1. では照応、4. 2. では係り先、そして、4. 3. では話し言葉・書き言葉に着目して考察した。ここでは、「こういう」「こういった」の置き換えが可能な場合について考察する。

はじめに、例文は以下のとおりである。

- (17) 檀家としての義務の一つに、お寺の建物の新築・改築・修理、といった際に割り当てられる寄付があります。お寺というものは、(中略) そのお寺に所属する檀家全体の共同所有物です。そのため、(○こういう / ○こういった) ことをするのは当然のことだということも知っておきましょう。(= (1))
- (18) 土地価格高騰とそれに付随する住宅難、道路の渋滞などの交通問題、大気汚染などの環境問題、予測される大地震への対策など、東京をとり

まく問題は数多い。(〇こういう／〇こういった)問題に真剣に取り組み、一つ一つ解決していかなければ、2050年には東京は廃墟と化してしまうだろう。(金水・木村・田窪(1989)を改変)

- (19) (前略) 会談は一回では決着しない公算が大きいので、以後はレストランなどを使うことにする。七十七日めころ、両者離婚に合意して、以後条件の交渉に入る。予定の二カ月後には、万事手続きを完了する—(〇こういう／〇こういった) 段取りである。(BCCWJ)

(17) は、もとは「こういった」が出現している文である。指示対象は「お寺の建物の新築・改築・修理、といった際に割り当てられる寄付」、係り先は「こと」である。(18) の指示対象は「土地価格高騰とそれに付随する住宅難、道路の渋滞などの交通問題、大気汚染などの環境問題、予測される大地震への対策」、係り先は「問題」である。(19) は、もとは「こういった」が出現している文である。指示対象は「(前略) 会談は一回では決着しない公算が大きいので、以後はレストランなどを使うことにする。七十七日めころ、両者離婚に合意して、以後条件の交渉に入る。予定の二カ月後には、万事手続きを完了する」、係り先は「段取り」である。(17) (18) (19) は、いずれも書き言葉であることと、前方照応であることから、両者の置き換えが可能であると思われる。次に、以下の例文を見ていただきたい。

- (20) 孔子は、教育的環境によるという考え方をしています。これも日本人に強い考え方です。友達が悪かったからだ、うちの子はちっとも悪くない、何かあると必ず (〇こういう／〇こういった) ことを言うわけです。(BCCWJ)
- (21) 職業はホステスで、銀座六丁目のクラブ「桂樹」に勤めている。(中略) 男関係については店のマスターが、「(〇こういう／〇こういった) 商売ですからつき合っていた男性は何人かいたかもしれないが、そんな深刻な関係の相手はいなかったようです」(BCCWJ)

(20) は、もとは「こういう」が出現している文、(21) は、もとは「こういった」が出現している文である。(20) の指示対象は「友達が悪かったからだ、うちの子はちっとも悪くない」、係り先は「こと」である。一方、(21) の指示対象は「職業はホステスで、銀座六丁目のクラブ『桂樹』に勤めている」、係り先は「商売」である。(20) (21) も、書き言葉であることと前方照応であること

から、両者の置き換えが可能であると思われる。

(20) (21) について、「こういう」の場合は、日本語記述文法研究会 (2009) にもあるように、現場の性質をそのまま述べているように感じられる。しかし、「こういった」に置き換えてみると、「他にも言いたいことがあるが、ここでは言わないでおく」という含みを感じられる。このことから、「こういった」を使用すると、評価しているように感じられる場合もあると思われる。

5. まとめ

本稿では、「こういう」「こういった」の使い分けについて考察した。考察の結果は、以下のとおりである。

- ①「こういう」は、前方照応の場合も後方照応の場合も使うことができる。一方、「こういった」は、前方照応の場合は使うことができるが、後方照応の場合は使うことができない。
- ②「こういった」の係り先のうち、約 20% が「連体修飾＋名詞」であった。
- ③係り先が名詞のみの場合は、形式名詞が多く出現しているが、連体修飾句＋名詞の場合は、形式名詞があまり出現しない傾向にある。
- ④話し言葉の場合は、「連体修飾＋名詞」の係り先が見られなかった。おそらく、話し言葉の場合は現場にあるものを直接指示することが可能であるため、名詞のみの係り先しか出現しなかったのだと思われる。
- ⑤指示対象が単数の場合に「こういった」を使用すると、「他にも言いたいことがあるが、ここでは言わないでおく」と、評価をしているような含みを感じられる。そのため、場合によっては失礼な印象を与えてしまう可能性がある。

今後の課題は 2 点ある。1 点目は、他の名詞を修飾するコ系指示詞との比較と体系を明らかにすることである。「こんな」「これらの」「このような」なども考察の対象として、名詞を修飾するコ系指示詞の使い分けを明らかにしていきたい。2 点目は、ソ系、ア系の場合では、どのような違いが見られるのかを明らかにすることである。コ系の場合と同じなのか、あるいは異なるのかを明らかにしていきたい。

参考文献

- 伊豆原英子 (2001) 「指示語から見た話し言葉の独話と書き言葉の独話—独話教育のための基礎的研究 (3) —」、『愛知学院大学教養部紀要』48 (4)、愛知学院大学、pp.91-102
- 遠藤織枝 (1988) 「話し言葉と書き言葉—その使い分けの基準を考える—」『日本語学』7 (3)、明治書院、pp.27-42
- 金水敏・木村英樹・田窪行則 (1989) 『日本語文法セルフマスターシリーズ 4 指示詞』くろしお出版
- 近悠美 (2014) 「連体詞「こういう」「こうした」の使い分け」『日本文学文化報 第63輯』韓国日本文化学会、pp.25-48
- 杉山さやか・劉轟 (2013) 「日本語と中国語の指示詞の対照研究—「コンナ」類と「コウイウ」類、“这种”類と“这样的”類を例に一」、『日中言語対照研究論集』(15)、日中言語対照研究会、pp.106-121
- 日本語記述文法研究会 (2009) 『現代日本語文法 7 第12部 談話 第13部 待遇表現』くろしお出版
- 松浦恵津子 (1997) 「指示語「ソナナ」と「ソウイウ」について」『言語文化と日本語教育』13、お茶の水女子大学日本語文化学会、pp.149-159
- 吉本啓 (1992) 「日本語の指示詞コソアの体系」『日本語研究資料集 指示詞』ひつじ書房、pp.105-122

コーパス

- 宇佐美まゆみ監修 (2011) 「BTSJ による日本語話し言葉コーパス (2011 年版)」『人間の相互作用研究のための多言語会話コーパスの構築とその語用論的分析方法の開発』平成 20-22 年度科学研究費補助金基盤研究 B (課題番号 20320072) 研究成果
- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所、文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクト『現代日本語書き言葉均衡コーパス』<http://chunagon.ninjal.ac.jp/> 〈検索日：2015/05/02〉

(こん ゆうみ・実践女子大学大学院 博士後期課程)